

和歌山県白浜町沿岸における生きたホシダカラガイ (腹足綱、タカラガイ科) の5例目個体

Shin Kubota : Fifth individual of a living *Cypraea tigris* Linnaeus (Gastropoda, Cypraeidae) at coasts of Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

はじめに

インド・西太平洋の潮間帯から水深40mの岩礁やサンゴ礁海域に広く分布するホシダカラガイ *Cypraea tigris* LINNAEUS, 1758の北限分布は、日本の太平洋沿岸の三浦半島付近であるが、成貝は和歌山県沿岸が北限である(田名瀬・久保田・檜山, 1999; 池田・淤見, 2007)。和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所付近では1974年から1998年の25年間で潜水、磯観察、打ち上げ、底刺網の採集方法でわずか13個体のホシダカラガイが発見されているのみで、そのうち生きたものは大型の未成貝2個体と幼貝2個体である(田名瀬・久保田・檜山, 1999)。その後、2008年9月中旬に至るまでに、北浜や番所崎などへの打ち上げでの少数の貝殻の発見はあるものの生体はまったく発見されていない(久保田, 2006; 久保田, 未発表)。

今回、大阪大学の臨海実習中、2008年9月13日に円月島そばの堤防沿いの外海に面した岩穴のくぼみ(番所崎の岩礁)で、干潮時に1個体の生きたホシダカラの未成貝を学生の真保春紀氏が発見・採集したので報告する。

この個体は、殻長85 mm、殻幅57 mm、殻高45 mm(図1)で、水槽に入ると触角をはじめ軟体部の足や外套膜をよく伸ばし、粘液も分泌した。殻は厚くなっていたものの歯はまだ十分には形成されていなかった。

この未成貝個体をこれまで記録されている未成貝の大きさと比べると、1974年に塔島西で底刺網にかかった貝殻内外唇に歯を形成した生きた未成貝(田名瀬・久保田・檜山, 1999)とほ

ぼ同様の大きさであったが、1987年に臨海南浜の磯観察時に発見された貝殻内外唇に歯を形成した生きた未成貝(田名瀬・久保田・檜山, 1999)よりは小ぶりであった。しかし、1990年に塔島西で、そして1995年に臨海北浜で採取された計2個体の死んだ成貝の貝殻(田名瀬・久保田・檜山, 1999)よりは小型であった。本個体はもう少しは大きくなれるのであろう。ちなみに本種は、わが国に産するタカラガイ類の中では2番目の大型種であり、日本での最大個体は125 mmの殻長に達し、世界では152.9 mmになる(池田・淤見, 2007)。

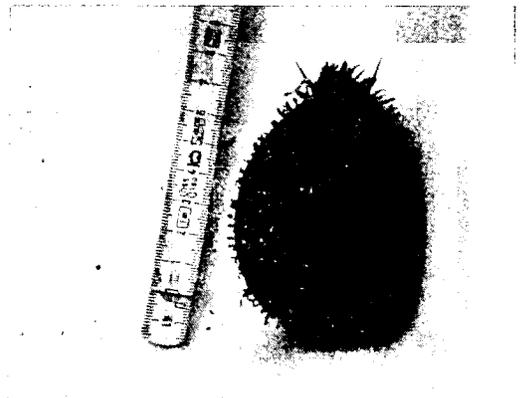


図1 和歌山県白浜町で採取された生きたホシダカラガイ(腹足綱、タカラガイ科)の未成貝

Fig. 1. A young individual of *Cypraea tigris* Linnaeus (Gastropoda, Cypraeidae) collected alive at Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan.

近年の地球温暖化の影響も受け、高水温によって熱帯性の本種が白浜町沿岸で成長し続けることが可能になり、冬季に死亡せず、今後、成員が多く発見されてくることもありうるだろう。

謝辞

大阪大学理学部教員はじめ大学院生・学生の計24名の皆様、とりわけ真保春紀氏に感謝致します。

引用文献

- 久保田 信. 2006: 宝の海から ―白浜で出会った生き物たち―. pp. 96-97, 図版27, 紀伊民報, 和歌山県.
- 池田 等・淤見慶宏. 2007: タカラガイ・ガイドブック, 215頁, 東京書籍, 東京.
- 田名瀬英朋・久保田 信・樫山嘉郎. 1999: 白浜町(和歌山県)のホシダカラガイ(腹足綱、タカラガイ科)の最近の記録. 南紀生物, 41(1), 75-76.

京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所
(〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)